

2007年の夏、LIコースのI・II年生31人が参加して、第3回目のフィリピン・ボランティア・スタディーツアーが行われました。マニラにある本校の姉妹校「セントポール・カレッジ・ハッピグ校」の生徒達の家庭にホームステイしながら、貧しい地区の人々との交流、山岳少数民族アエタ族を訪問しての子供達との交流・医療活動や給食のお手伝いなど、貴重な体験をすることができました。生徒達は、フィリピンの貧富の差という現実に驚きながらも、貧しい人々の自立のために活動している姉妹校のスタッフやシスター・エヴァと共に活動し、多くのことを学んで帰国しました。

7/23 月	マニラ着、ホストファミリーと対面
7/24 火	歓迎セレモニー、授業体験
7/25 水	姉妹校が運営する貧しい地区の小学校で交流、Community(貧しい地区)訪問、
7/26 木	アエタ族の村へ、文化交流、ミサ 医療活動参加、給食のお手伝い
7/27 金	
7/28 土	ホストファミリーと過ごす
7/29 日	
7/30 月	パナナ農園・パイナップル農園見学
7/31 火	振り返りの時間、さよならパーティー
8/1 水	成田着、仙台へ

Foundation School 訪問

Foundation School とは、マニラの姉妹校が運営する貧しい地区の子供達が通う小学校。フィリピンのスラム街には、小学校にも通えない子供達が多い。姉妹校はその子供達を集め、英語をはじめ基礎的教育を行っている。



←英語で紙芝居

校舎に隣接した畑では、自立を目指して保護者が野菜作り⇒



手渡された「リサイクル・ノート」

Community (スラム街) 訪問

Foundation School の子供達が住むスラム街へ。粗末な家が立ち並ぶが、人々は皆、笑顔で迎えてくれた。



山岳少数民族“アエタ族”の村を訪問

アエタ族とは、1991年のピナツボ山の大噴火以来、定住を余儀なくされている山岳少数民族。本修道女会のシスターであるシスターエヴァは、学校建設、野菜栽培、診療奉仕など、彼らの自立のための活動を行っている。



シスター・エヴァとアエタ族の子供達。シスターは、アエタ族への支援のほかにも、寄付を集めて、貧しい人々も診療を受けられる病院を建設し、外科医でもあるシスター自らが治療にもあたっている。

マニラからバスで3時間、その後、30分の山登り、ようやくアエタの村に到着



給食のお手伝い。共に感謝して食事をいただく大事な時間



診療所でお手伝い。処方された薬を、アエタ族の人々に手渡した。



アエタ族の子供達にも、リサイクル・ノートが手渡された。ここでは文房具が不足している。